

個人投資家向け会社説明会



ヤマハ発動機株式会社

東証プライム:7272

2022年12月13日

企業目的・ブランドスローガン

感動創造企業

世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する

人々の夢を知恵と情熱で実現し、つねに「次の感動」を期待される企業
それが、感動創造企業・ヤマハ発動機である。

Revs Your Heart

心躍る瞬間、
そして最高の経験を、
YAMAHAと出会う
すべての人へ



本日の内容

1. 会社概要
2. 事業活動
3. 中期経営計画
4. 業績・株主還元
5. まとめ

会社概要

※1 2022年9月末現在
※2 2021年12月末現在

社名	ヤマハ発動機株式会社
業種	輸送用機器
上場	東京証券取引所(証券コード:7272)
創立	1955年(昭和30年)7月1日
資本金	861億円※1
代表取締役社長	日高 祥博
従業員数	連結会社計:51,243人※2
本社	〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500
関係会社	連結子会社128社(国内21社、海外107社)※1
単元	100株



代表取締役社長 日高 祥博



静岡県磐田市本社

【格付】

Moody's :Baa1

R&I : A

【ESG格付】

MSCI ESG RATINGS AAA :AAA (最高位)

CDP :B

【ESGインデックス採用ほか】



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



2021 CONSTITUENT MSCI ジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数



Sompo Sustainability Index

S&P Japan 500 ESG



健康経営優良法人
Health and productivity



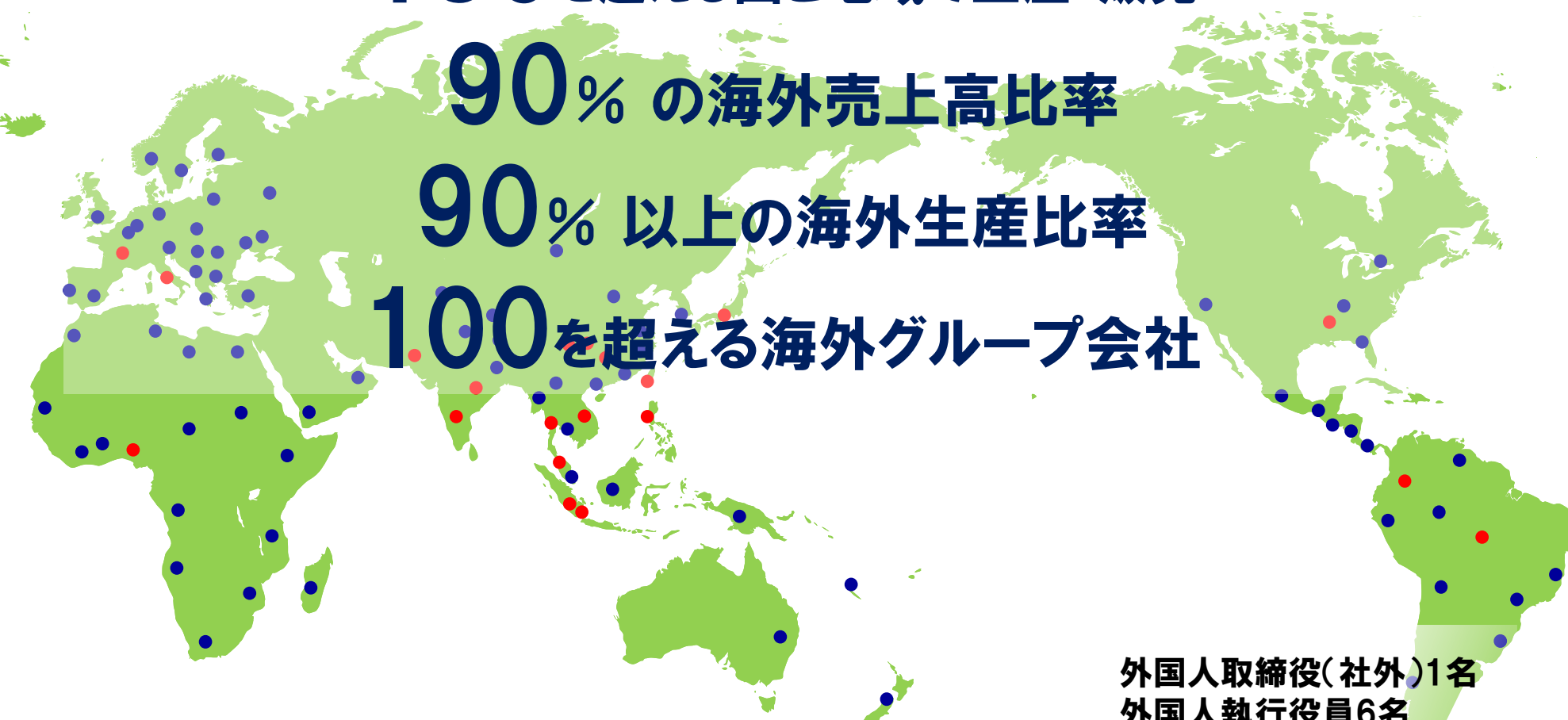
DX認定

180を超える国と地域で生産・販売

90%の海外売上高比率

90%以上の海外生産比率

100を超える海外グループ会社

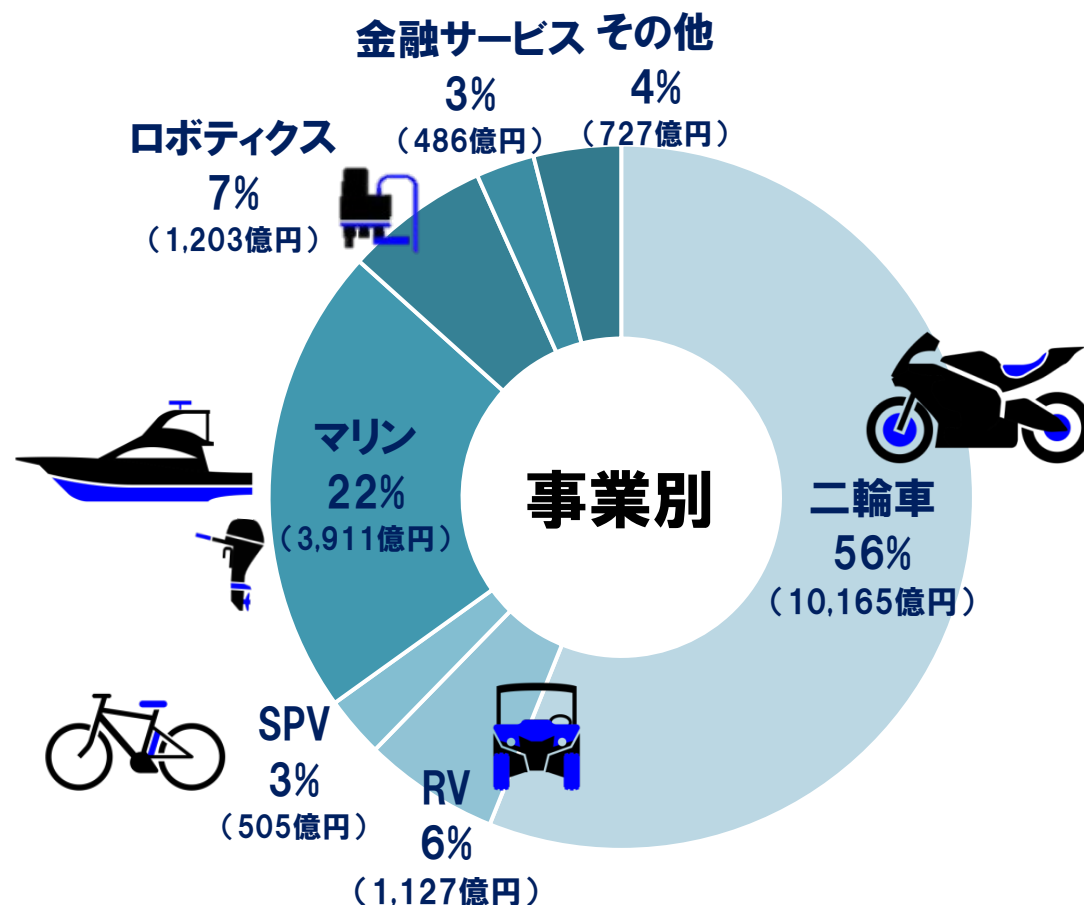
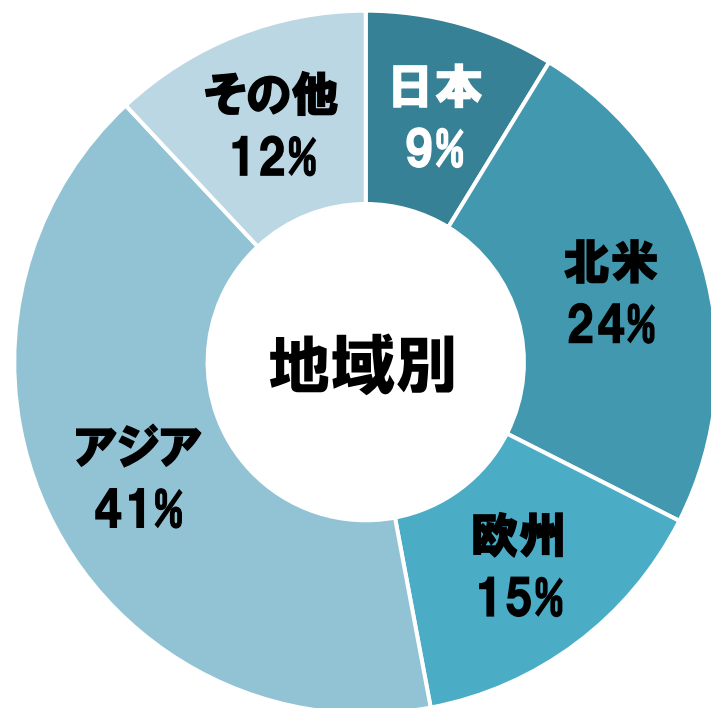
- 
- 生産・開発・販売拠点
 - 販売拠点ほか

外国人取締役(社外)1名
外国人執行役員6名
グローバル社員127名

売上構成（2021年12月期）

連結売上高 = 1兆8,125億円

※過去最高



Withコロナ Afterコロナ（市場環境）



米国：アウトドア・ファミリーレジャーの需要増加
欧州/日本：パーソナルモビリティの価値提供



本日の内容

1. 会社概要
- 2. 事業活動**
3. 中期経営計画
4. 業績・株主還元
5. まとめ

高い信頼性から生まれたブランド力を強みに 営業利益率15%以上

船外機



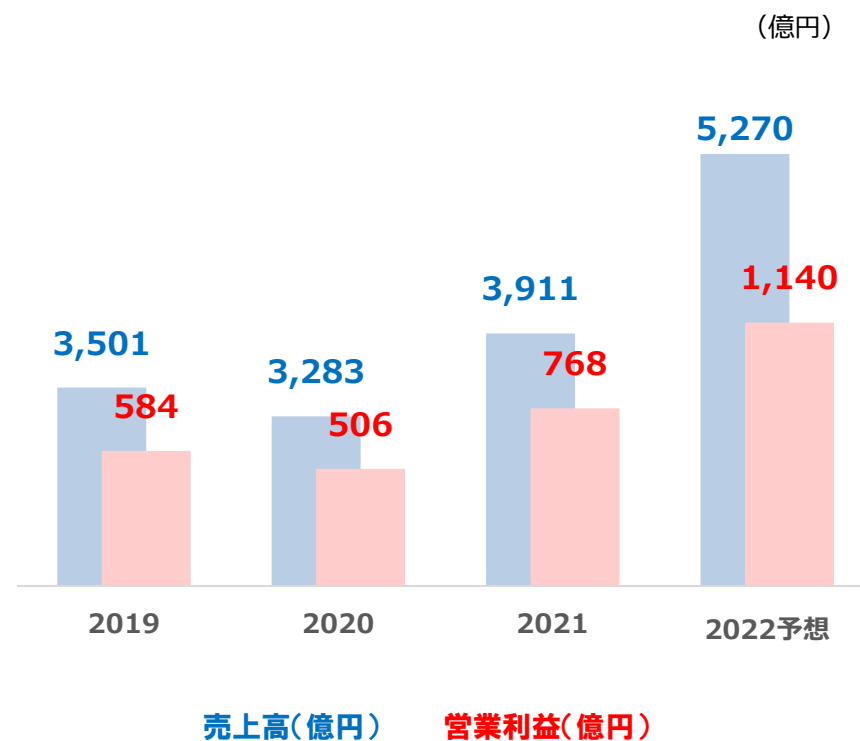
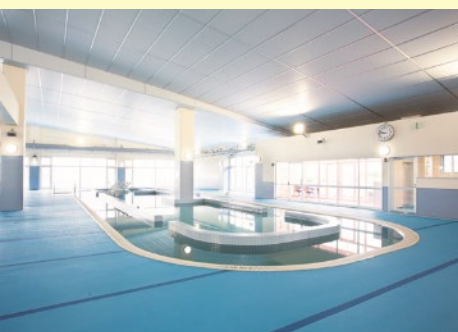
プレジャーボート



水上オートバイ



プール

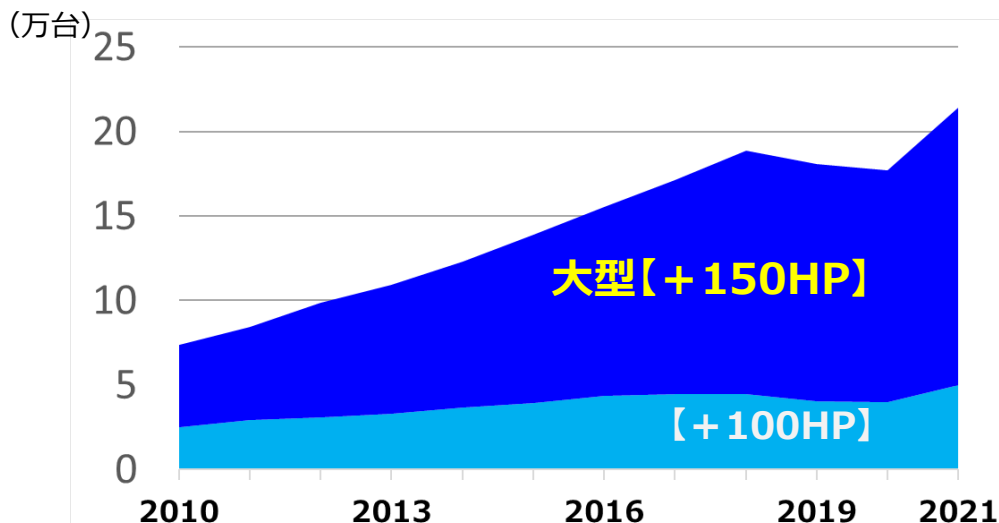


マリン事業 ～ 高収益体質と提供価値拡大～

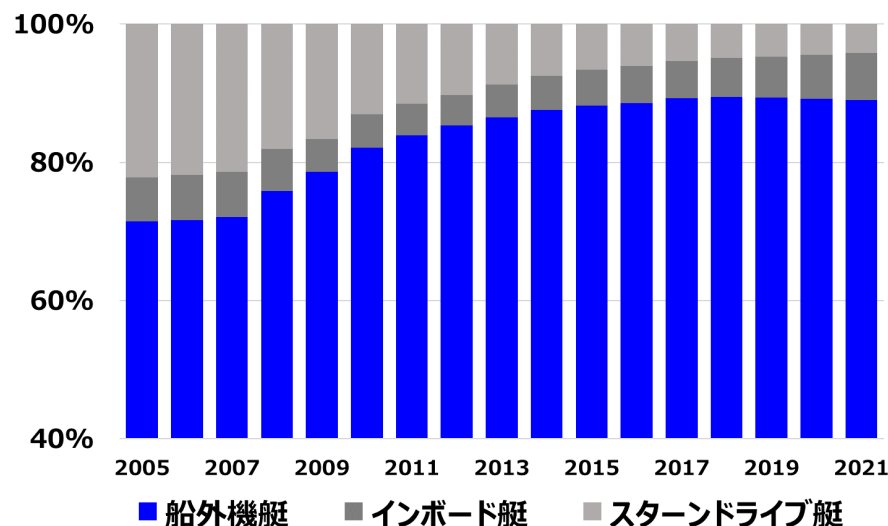
- 大型船外機の需要増加
 - ✓ 大型船外機の性能アップ
 - ✓ 多機掛け大型ボートの増加
- 他推進機→船外機への換装
 - ✓ 船内スペースの有効活用
 - ✓ 信頼性と取り扱いやすさ



■ 大型船外機総需要推移 (米欧)



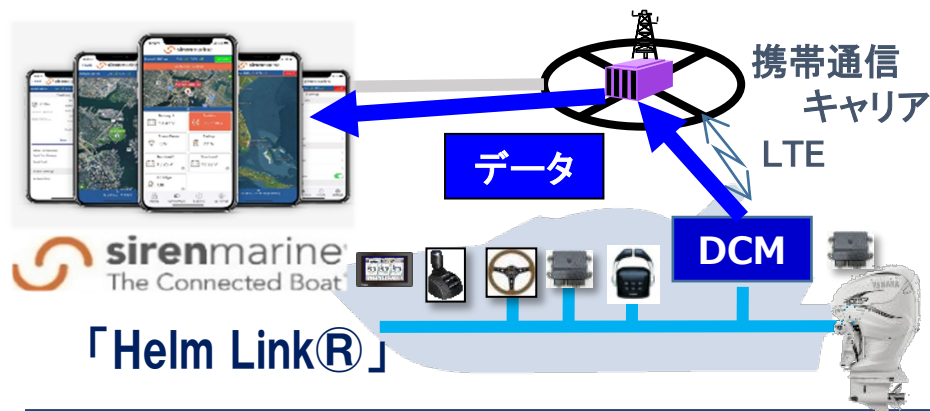
■ 推進機別ボート販売比率推移 (北米のみ)



マリンCASE戦略

Connected (つながる安心感)

故障診断、問題の早期発見と未然防止



Autonomous (安心・快適、身近なマリンレジャー)

次世代操船システムで
更なる安心と快適な操船を提供



Shared (経験から自己実現へ)

シェアリングによる
マリン・エクスペリエンスの提供



Electric (静肅な時間・空間)

電動推進ユニットとステアリングシ
ステムを統合した
新たなプラットフォーム



船外機との組み合わせによるボートのハイブリッド化

二輪車事業は会社創立から基幹事業として展開 経営効率・商品競争力を高め、安定した収益体質へ

二輪車



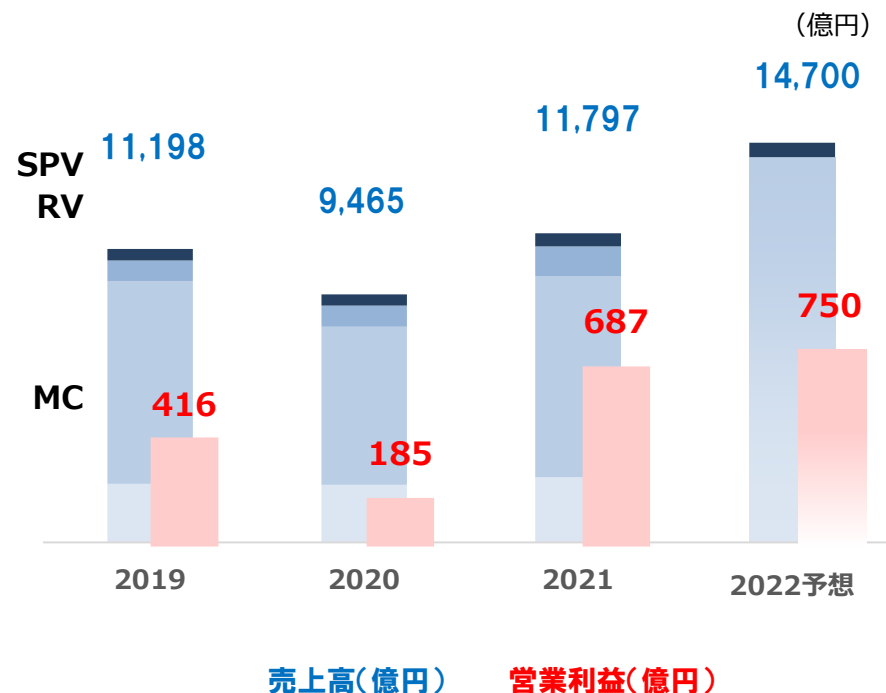
※プロフェッショナルライダーによるクローズドスペースでの走行を撮影したものです



ROV

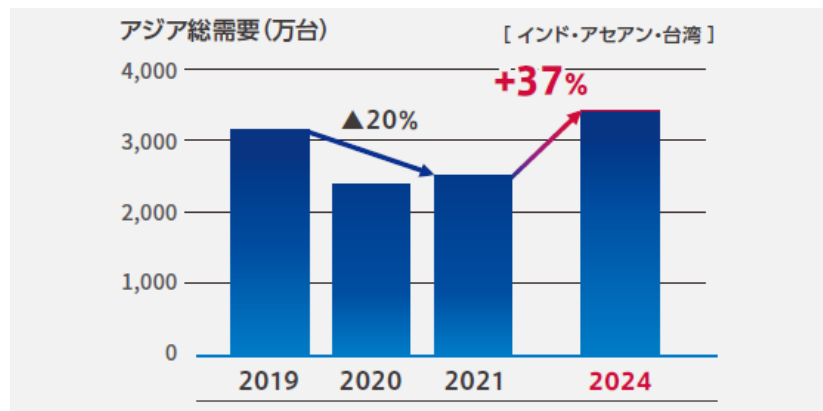


電動アシスト自転車



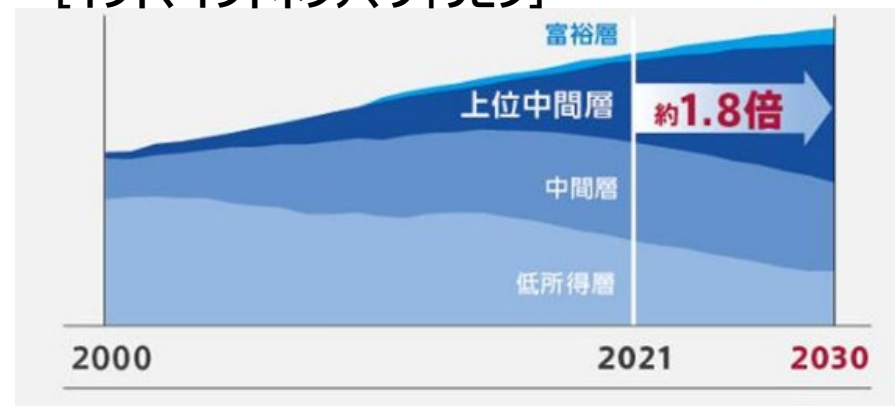
二輪車事業 ～ 新興国市場 プレミアム戦略推進～

ポストコロナの想定需要



上位中間層※がターゲット

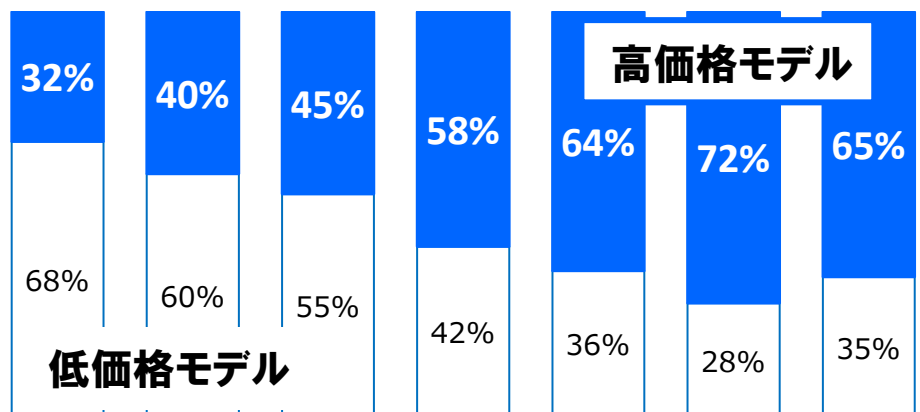
[インド、インドネシア、フィリピン]



※上位中間層 年間可処分所得 15k~30kドル@世帯

高価格モデルの販売比率増加

(例)インドネシア価格帯別販売台数推移



2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年

デジタルとリアルを融合したマーケティング・ブランドマーケティング



SPV事業

ドライブユニットを核としてOEM/完成車事業の拡大を両立させ、
人間感覚を最優先した車両を通してモビリティに変革をもたらす

(億円)

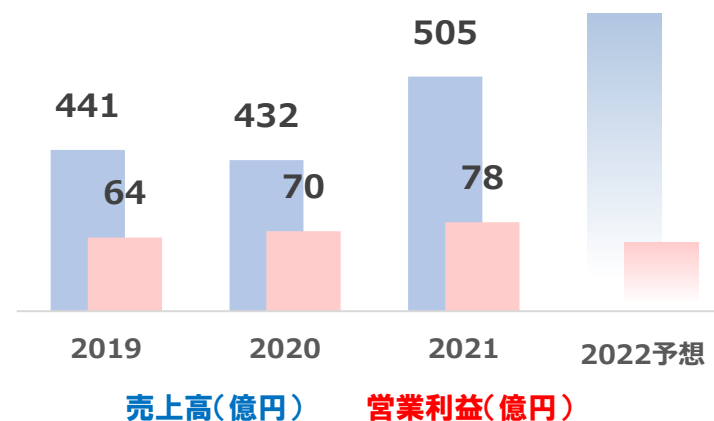
電動アシスト自転車



e-Kit



電動車いす



市場ポテンシャル

■日米欧総需要当社予測

CAGR
18%

2030年に向け
市場成長持続

2020 2021 2022 2023 2024

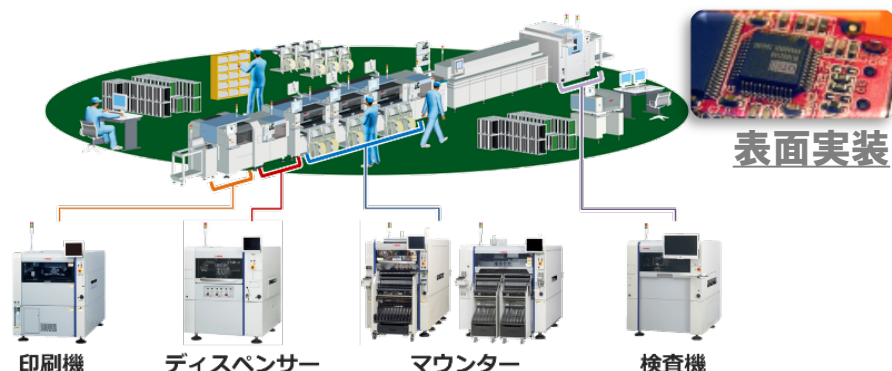
2030



ロボティクス事業

高い汎用性と柔軟性、トータルソリューション提供が強み

表面実装機（SMT）



基板の作り方（メイン4工程）

1. 印刷

はんだペーストを基板上に印刷する工程

2. 搭載

はんだ上に部品を搭載する工程

3. リフロー

はんだを熱で溶解→硬化させる工程

4. 検査

基板が正しくできているか検査する工程

半導体後工程装置（SEMI）



2019年事業統合→ヤマハロボティクスホールディングス（YRH）

産業用ロボット（FA）

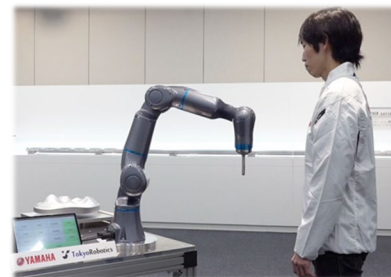
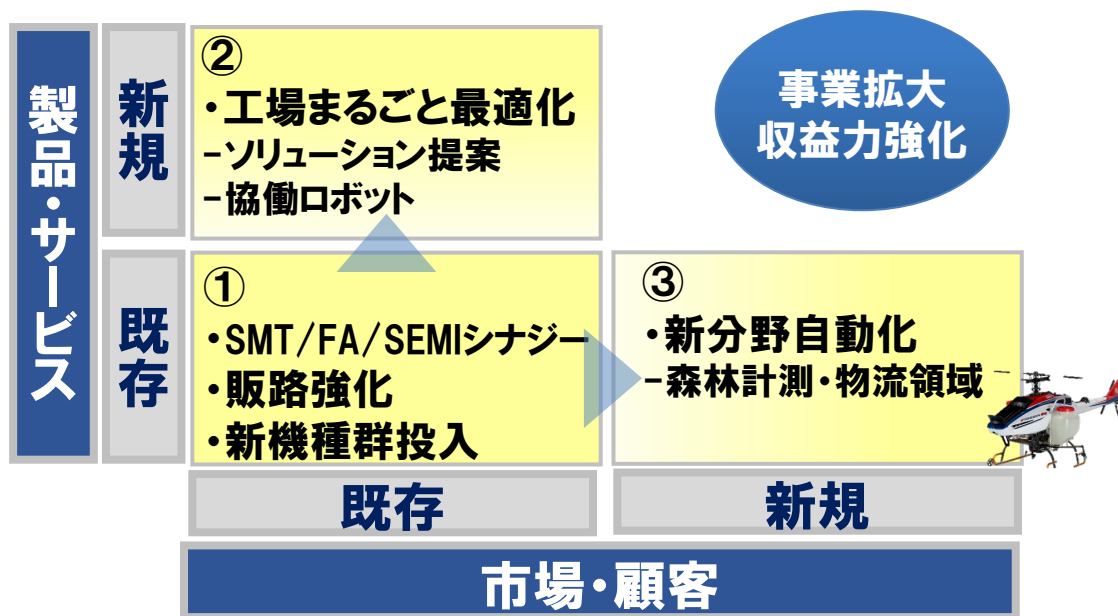


- One-stop Smart Solution
- インテリジェントファクトリー

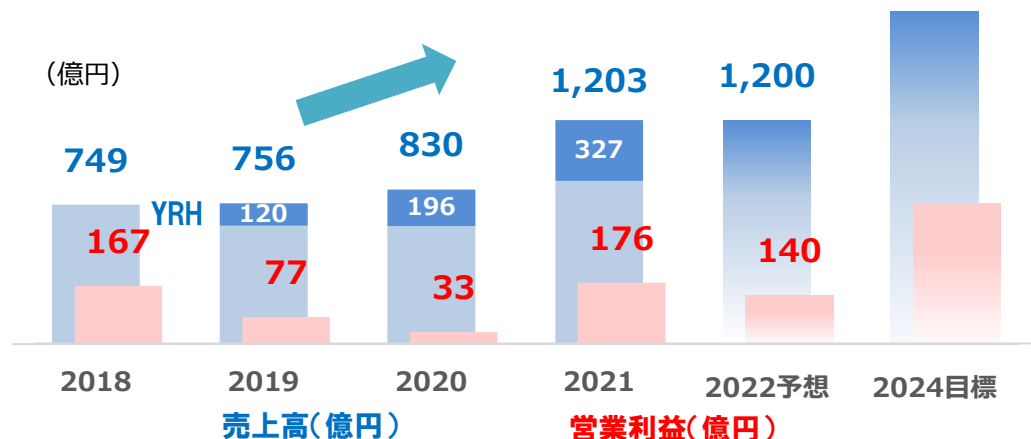


- ✓ 柔軟な対応
- ✓ 止まらない生産
- ✓ 稼働監視・分析で不良を未然防止

ロボティクス事業 ～中期戦略～



事業拡大と収益力強化



1兆円規模の市場(SMT・SEMI・FA等合計)

- ・IoT、5G、自動車CASE対応が需要をけん引
- ・労働人口減少で自動化ニーズ加速

半導体後工程を含めたシナジー効果で
事業規模・領域拡大、収益力強化へ

本日の内容

1. 会社概要
2. 事業活動
- 3. 中期経営計画**
4. 業績・株主還元
5. まとめ

中期経営計画 ～基本方針～

企業目的

感動創造企業

長期ビジョン

ART for Human Possibilities

人はもっと幸せになれる

新中期経営計画

2022～2024

2019～2021

環境の変化
パンデミック

サステナビリティ
意識の高まり
カーボンニュートラル

変革の必要性
DXビジネスモデル

成長戦略

基盤強化

+

サステナビリティ

「コア事業の稼ぐ力」を強め、

サステナブルな社会に貢献する

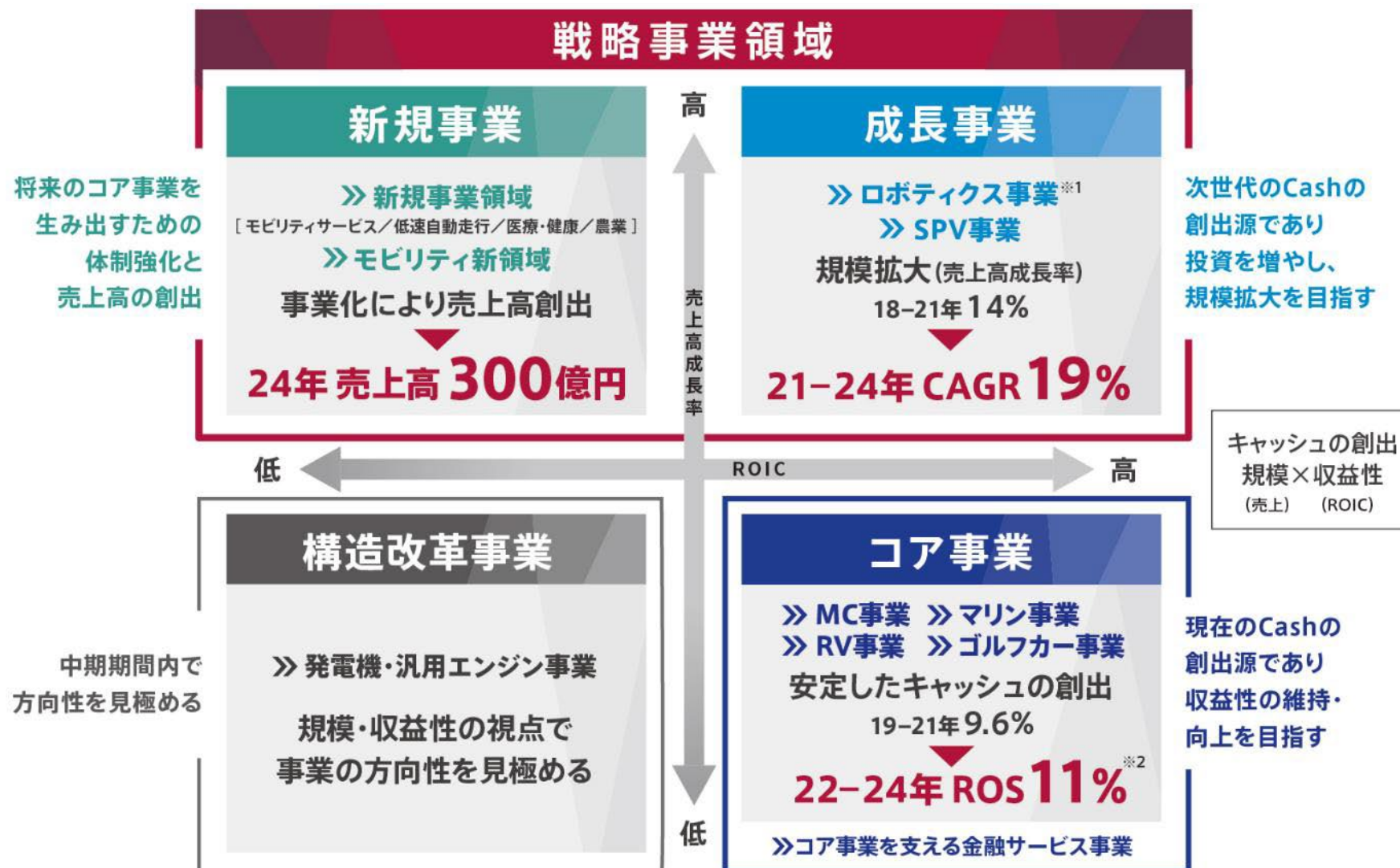
「新規・成長事業に投資」し、

「デジタルと共創の加速」で
成長性を高める

2025
～
2027

2028
～
2030

中期経営計画 戦略事業領域



※1: サーフェスマウンター、半導体製造装置、産業用ロボット、産業用無人ヘリコプターを含む

※2: ROSはコーポレート費用を含んでいない数値で算出

中期経営計画 財務指標

財務指標

成長性

売上高
2024年 **2.2** 兆円
以上 | CAGR^{※1} **7** %
以上

収益性 (3年平均)

営業利益率
前中期 **7.5** % | 新中期 **9** %
以上

効率性 (3年平均)

資本コスト^(7%台を想定)以上のリターンの継続的創出
ROE **15** % | ROIC **9** % | ROA^{※2} **10** %
水準 水準 水準

株主還元 (3年間)

総還元性向
中期経営計画期間累計 **40** %
水準

キャッシュフロー

Cash-In

純利益
4,000
億円～

償却費
1,700
億円～

Cash-Out

株主還元
1,600
億円～

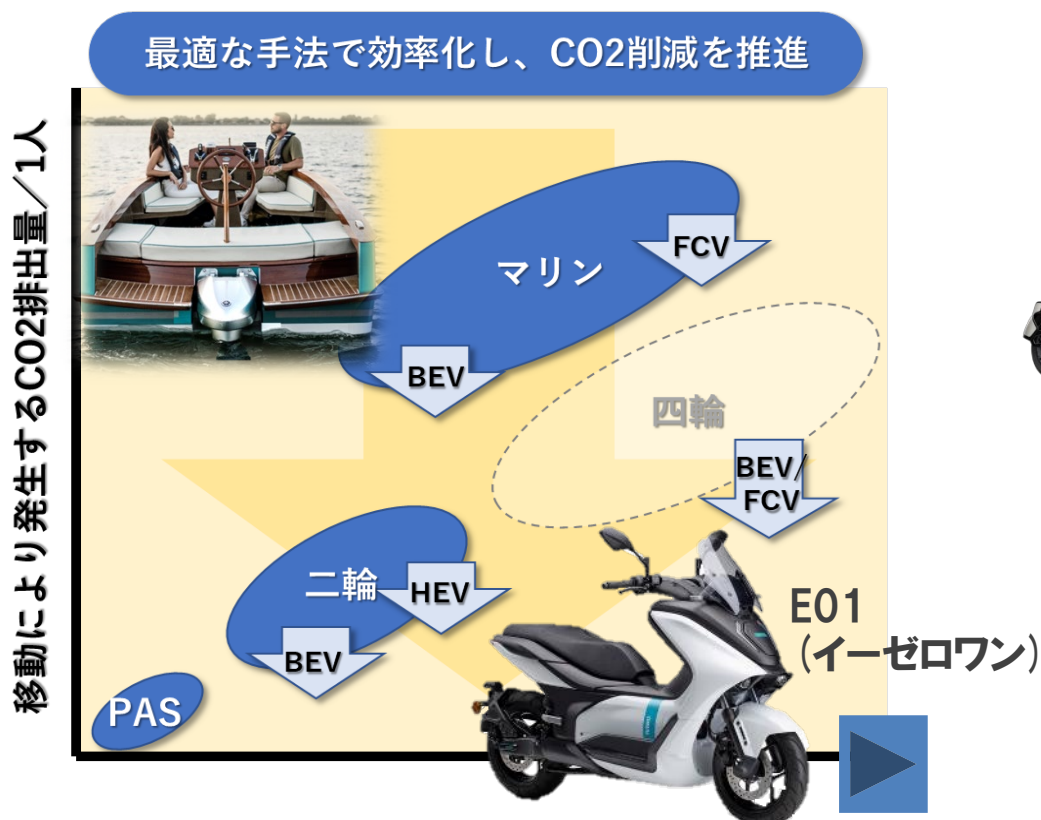
成長投融资
1,000 億円
運転資金
1,000 億円

設備投資
2,800
億円

コア事業・戦略事業・基盤構築に4,800億円

ヤマハ発動機らしいカーボンニュートラル戦略

基本方針： 移動に伴う1人あたりのCO2排出量のさらなる低減を目指す



40年以上前から電動商品を開発・販売

ゴルフカー(1979年)電動アシスト自転車(1993年)

電動車いす(1995年)電動スクーター(2002年)産業用ドローン(2018年)

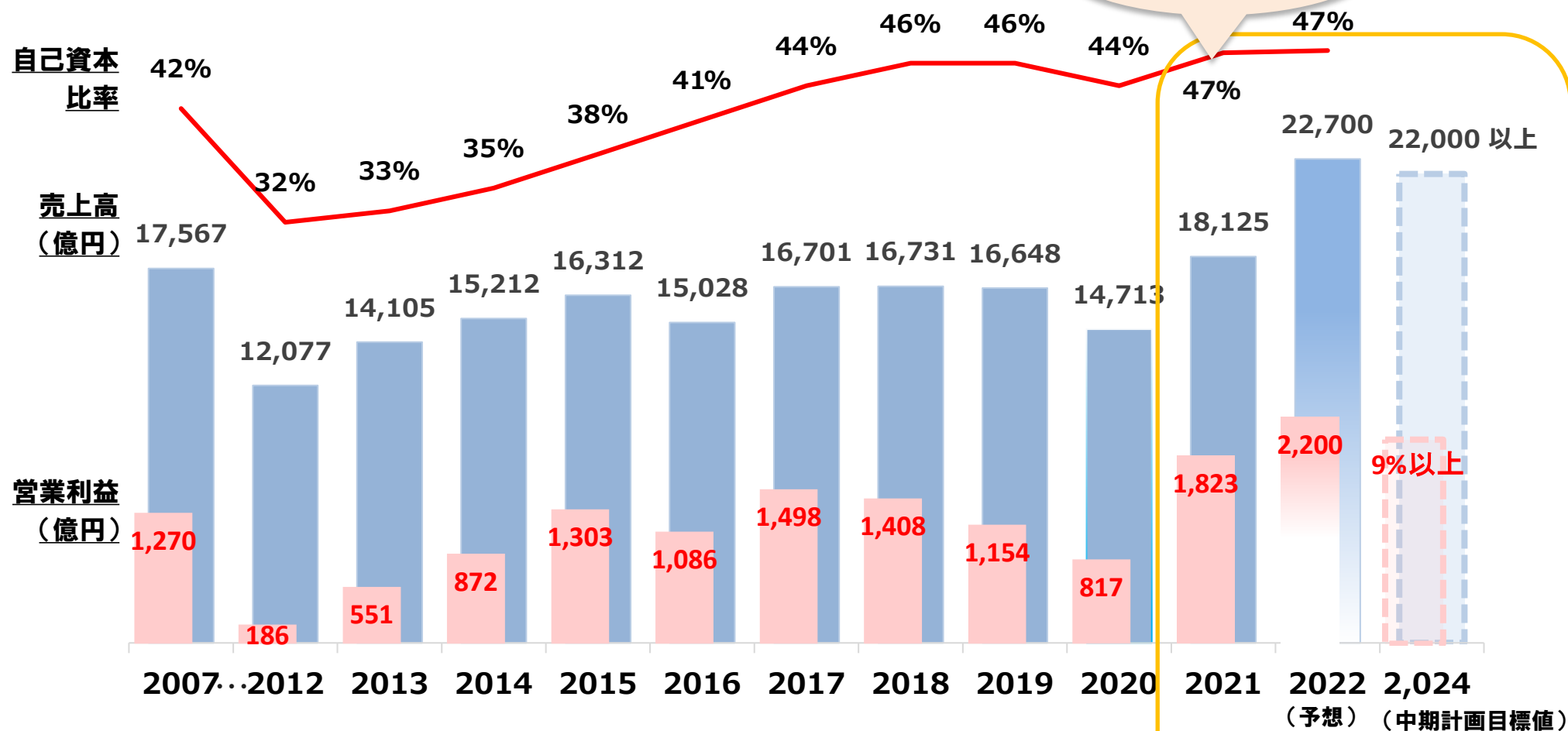


本日の内容

1. 会社概要
2. 事業活動
3. 中期経営計画
- 4. 業績・株主還元**
5. まとめ

業績の推移

※表示されている2014年以前の数字は、
販売金融に関わる収益・費用の組替を行う前のものです。



ROE(%)	14.2	2.5	12.7	16.2	12.6	12.3	17.6	14.6	11.1	7.5	19.8	-	15%水準
時価総額(億円)		3,313	5,506	8,527	9,583	8,989	12,904	7,540	7,696	7,352	9,542	-	-

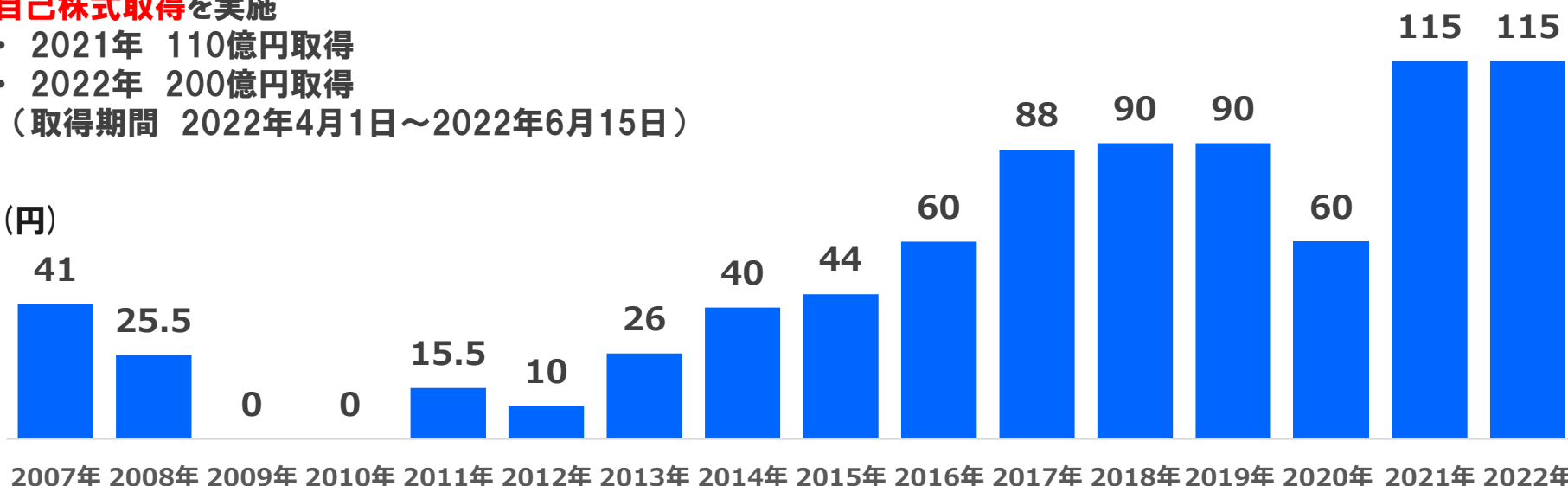
株主様への還元

1. 業績の見通しや将来の成長に向けた投資を勘案しつつ、
安定的かつ継続的な配当
2. C/Fの規模に応じて機動的な株主還元も実施。
自社株買いも含め**総還元性向40%**(2022-2024年累計)を目安とする

自己株式取得を実施

- ・ 2021年 110億円取得
- ・ 2022年 200億円取得
(取得期間 2022年4月1日～2022年6月15日)

配当金 (円)



配当性向

(%)	16.52	394.3	-	-	20.1	46.6	20.6	20.4	25.6	33.2	30.2	33.7	41.5	39.5	25.8	27.0
EPS (円)	6.47	△755.9	55.50	77.23	21.45	126.20	126.2	196.06	171.89	180.84	290.93	267.35	216.83	151.89	445.67	425.15

1,000 P



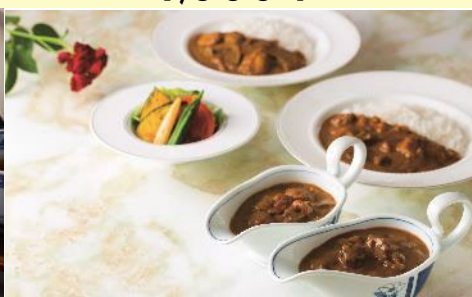
2,000 P



3,000 P



4,000 P



体験型商品



本社・グループ会社所在地の名産品 体験型の商品をご用意！

株主優待対象者様

12月31日時点の株主名簿に記載又は記録された
1単元(100株)以上の株式を保有の株主様

優待内容

保有株式数・保有期間によりポイントを進呈し、
ポイント数に応じて、優待品の中から好きな商品
をお選びいただけます。

株主優待ポイント

保有株数 / 期間	3年未満	3年以上
100株以上500株未満	1,000	2,000
500株以上1,000株未満	2,000	3,000
1,000株以上	3,000	4,000

株主様との関係をさらに強化し、

当社のことをより深く知っていただくためのファンクラブ



■会員特典

・イベントへのご招待

ボート体験クルーズや二輪車/船外機工場の見学会、
経営層との意見交換会、
製品の共創型クリエイティブイベントなど

・会員限定メールマガジンの購読

・会員限定のグッズ販売など



2022年10月マリン事業説明会・
ボート試乗会

■クラブ会員数

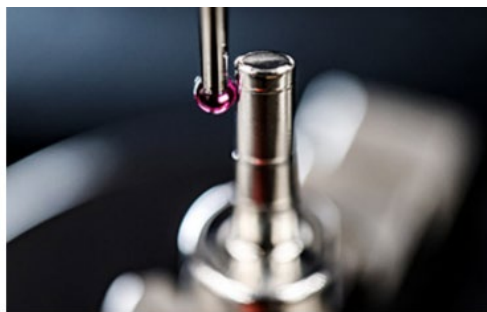
約10,215名

※2022年11月16日現在

■主な入会条件

毎年6月末・12月末時点で、

ヤマハ発動機の株式を100株以上保有していること



2021年10月1日
ブルーボトルコーヒーの風味を支える「緑の
下の力持ち」

メールマガジン



SR400ロゴ刻印 ロックグラス

本日の内容

1. 会社概要
2. 事業活動
3. 中期経営計画
4. 株主還元
5. まとめ

- 1. 堅調なアウトドアレジャー、パーソナルモビリティ需要を取り込む**
- 2. 高収益体質のコア事業から安定的にキャッシュを創出し、戦略事業(ロボティクス・SPV・新規事業)を成長させる**
- 3. サステナビリティの取り組みを一段と強化し社会とともに自らも成長していく**



ヤマハ発動機株式会社
(東証プライム 7272)

メール配信サービス、IRサイトのご案内

投資家向けサイト

決算報告や財務データ、IRカレンダーをはじめ、統合報告書などみなさまに役立つ情報を掲載しています。

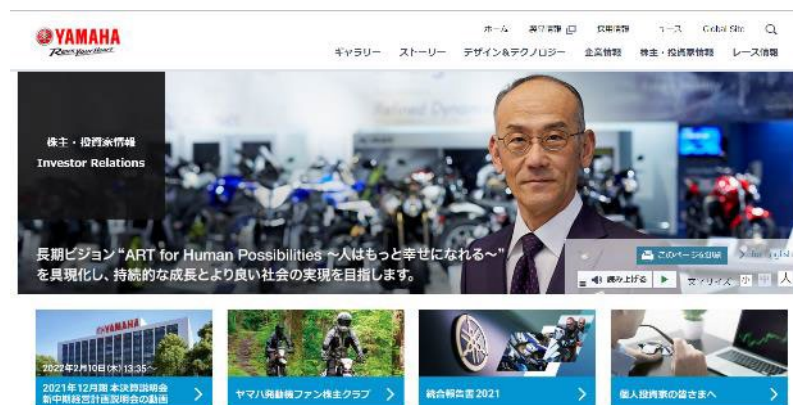
<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/>



IRメール配信サービス

当社IRに関する情報について、ご登録いただいたメールアドレス宛にお知らせします。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/mail/>



ヤマハ発動機のあゆみ

1887年、山葉寅楠が浜松でオルガン修理

1897年、**日本楽器製造** 誕生
(現在のヤマハ株式会社)



1955年、**二輪車部門**を分離・独立
(ヤマハ発動機の始まり)



ヤマハ 株式会社



ヤマハ発動機 株式会社



2022年経営業績（年間予想）

2022年業績：売上高 2兆2,700億円 / 営業利益 2,200億円に上方修正

（億円）	2019年 実績	2021年 実績	2022年 前回予想	2022年 今回予想	前年比
売上高	16,648	18,125	22,000	22,700	125%
営業利益	1,154	1,823	2,000	2,200	121%
営業利益率	6.9%	10.1%	9.1%	9.7%	-0.4pts.
経常利益	1,195	1,894	2,100	2,330	123%
当期純利益	757	1,556	1,450	1,630	105%
（\$・€）	109・122	110・130	127・134	132・137	
（\$/IDR・BR\$）	14,087 3.9	14,236 5.4	14,700 5.2	14,784 5.2	

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

2023年見通し

⊕ 原材料費・海上運賃の高騰は一服 ⊖ 長引く半導体等部品調達課題、グローバル景気後退懸念

株価の推移 2007－2022年

12月8日時点： 株価(終値)3,345円/ 配当利回り 3.44%/ PER 7.00倍

